



筑波大学 菅平高原実験所 ススキ草原  
この花なあに?  
*What is this flower ?*





# 筑波大学山岳科学センター

## 菅平高原実験所

### 敷地概略図



### ススキ草原の概要

筑波大学菅平高原実験所内にある約6haの区域の草を毎年10月に刈取り、草原区として維持管理をしています。6haにも及ぶ緩斜面に草原を維持していることは全国的にも珍しいことです。この草原区では、「温暖化が高原の植生に与える影響」、「日本新産のススキ病原菌の発見」など種々の研究がされています。

この草原はススキ、ワラビ、ヨモギが優占していますが、草原の中央付近に窪地があるなど地形・地質の変化があることから植物は100種以上の生育が確認されています。特に絶滅危惧種のツキヌキソウ、スズサイコ、キキョウ、オミナエシなど希少植物の生育は特記にあたいます。また、ススキ、オオアブラススキ、オオアワガエリ、アズマザサ、カモガヤ、シバ、トダシバなど多くのイネ科の植物が生息するのも特徴の一つです。

一方、最近オオバコクサをはじめ、オオバコなどの外来種が多くなりつつあり、菅平高原本来の植生に大きな影響を与えるのではないかと危惧されるところです。

#### 表紙の説明 (左上段から)

イケマ マツムシソウ ハナイカリ ベンケイソウ ツリガネニンジン  
コウゾリナ シシウド コオニユリ メドハギ ウツボグサ



## 菅平高原の自然と生物

### 菅平高原の自然のすがた

人がまだ住んでいなかった時代の菅平にはブナ林などの原生林が広がっていたと考えられています。その後、人々が暮らすようになり、現在みられるような高原野菜畑、スキー場、牧場、ラグビーやテニスなどの運動場、人工林などが混在する景観に変化してきました。現在菅平には、天然のブナ林はごくわずかしかなかった時代が残っていません。

### 菅平高原の気候と地形

菅平高原の年間の気温は、北海道の稚内と同程度ですが、内陸型の気候のために1日の中の気温変化が大きくなっています。夏は最高気温が30度を超えることがなくとても涼しいところですが、冬の寒さは厳しく $-20^{\circ}\text{C}$ を下回ることもたびたびあります。雪は11月下旬に降りはじめ4月上旬まで積っています。

菅平高原は、根子岳（2207m）・四阿山（2354m）の南西に広がるなだらかな斜面、西部の大松山・燕山、北部の太郎山に囲まれた盆地状の地域で、黒ボク土とよばれる土壌で覆われています。中央部の菅平湿原は、その昔に根子岳・四阿山が噴火して川がせき止められ、そこにできた湖が長い間に浅くなりできたものだといわれています。

### 菅平高原の植生

菅平に特徴的な植生は大きく次の三つに分けられます。

(1)根子岳・四阿山山頂付近の亜高山帯針葉樹林：シラベやコメツガなどが優占し、林のないところにはコケモモ、ガンコウラン、クロマメノキなどが見られます。クロマメノキを餌とする絶滅危惧種ミヤマモンキチョウはこの一帯だけでみられます。

(2)中腹の落葉広葉樹林とススキ草原：標高1600m付近を境にそれより上はダケカンバ、下はシラカンバが優占し、標高1300m付近になるとミズナラやアカマツの林が多くなります。また、国内では菅平と長野県のいくつかの場所にしか分布していないツキヌキソウという珍しい植物がみられます。

(3)菅平湿原：主に北方系のクロビイタヤ・シバタカエデ・ハナヒョウタンボク・オニヒョウタンボク・クロミサンザシ・カラフトイバラなど希少な樹種が生育し、オニナルコスゲ・オオカサスゲなどの草本が優占しています。また、クロサンショウウオなどの貴重な動物も住んでいます。

種 名		P	種 名		P
アズマギク	キク科	5	ウド	ウコギ科	12
センボンヤリ	キク科	5	イブキボウフウ	セリ科	12
ニガナ	キク科	5	シシウド	セリ科	12
ノアザミ	キク科	5	メマツヨイグサ	アカバナ科	12
ノハラアザミ	キク科	5	オトギリソウ	オトギリソウ科	13
ユウガギク	キク科	6	ヒメハギ	ヒメハギ科	13
サワヒヨドリ	キク科	6	ゲンノショウコ	フウロソウ科	13
ノコギリソウ	キク科	6	メドハギ	マメ科	13
ゴマナ	キク科	6	ミツバツチグリ	バラ科	14
コウゾリナ	キク科	7	ワレモコウ	バラ科	14
ヤナギタンポポ	キク科	7	キンミズヒキ	バラ科	14
ノコンギク	キク科	7	ウメバチソウ	ユキノシタ科	14
アキノキリンソウ	キク科	7	ベンケイソウ	ベンケイソウ科	15
ハンゴンソウ	キク科	8	キリンソウ	ベンケイソウ科	15
キキョウ	キキョウ科	8	カラマツソウ	キンポウゲ科	15
ツリガネニンジン	キキョウ科	8	アキカラマツ	キンポウゲ科	15
カワラマツバ	アカネ科	8	ウマノアシガタ	キンポウゲ科	16
ツキヌキソウ	スイカズラ科	9	オオヤマフスマ	ナデシコ科	16
マツムシソウ	マツムシソウ科	9	イタドリ	タデ科	16
オミナエシ	オミナエシ科	9	アキノウナギツカミ	タデ科	16
クルマバナ	シソ科	9	カラハナソウ	アサ科	17
ウツボグサ	シソ科	10	アヤメ	アヤメ科	17
スズサイコ	ガガイモ科	10	アマドコロ	ユリ科	17
イケマ	ガガイモ科	10	コオニユリ	ユリ科	17
フデリンドウ	リンドウ科	10	ユウスゲ	ユリ科	18
ハナイカリ	リンドウ科	11	ヤマラッキョウ	ユリ科	18
リンドウ	リンドウ科	11	オオバギボウシ	ユリ科	18
コナスビ	サクラソウ科	11	スズラン	ユリ科	18
オカトラノオ	サクラソウ科	11			

※ 科名はクロンキスト分類体系に、学名はYlistに基づく ※ 開花時期は実験所内で見られる時期

※ ☆希少種（実験所ススキ草原内） ※ ★絶滅危惧種（長野県版レッドリスト2014）

※ Ylistについて ([http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist\\_main.html](http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html))



## 絶滅危惧種

- ・絶滅危惧ⅠA類（CR） ごく近い将来における絶滅の危険性がきわめて高い種
- ・絶滅危惧ⅠB類（EN）ⅠAほどではないが、近い将来における絶滅の危険性がきわめて高い種
- ・絶滅危惧Ⅱ類（VU）絶滅の危機が増大している種
- ・準絶滅危惧種（NT）現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

## 帰化植物

国外から人為的に持ちこまれ野外で勝手に生育するようになったもののこと。意図的に持ちこまれたものと、そうでないものがある。日本本土の植物が4000種、そのうち帰化植物は1200種といわれている。

## アルカロイド

植物をはじめ様々な生物から生産される窒素を含む塩基性の有機化合物。有毒であるが薬理作用があり医薬品として有用な物質も多い。ケシから抽出されたモルヒネがその例である。

## 雄性先熟

虫媒花に多く見られる。最初に雄しべが成熟し昆虫に花粉を渡す。雄しべが萎れてから雌しべが成熟し昆虫から花粉（別花）を受け取り受粉する。自家受粉をさけるため。

## 一年草

一年以内に発芽・成長・開花・結実し枯死するもの。

## 越年草

秋に発芽し越冬。夏までに開花結実し枯死するもの。  
広義の一年草に含まれる。

## 多年草

個体として複数年にわたって生存するもの。

## 葉の付き方



互生



対生



輪生



根生

## 花の付き方

散形花序



セリ科

頭状花序



キク科

穂状花序



タデ科

## アズマギク (キク科)

*Erigeron thunbergii*



1日中日の当たる山地の草原に生える多年草。草丈20~30cm。根元の葉は長へら形。根生し、花茎を出し頭状花を一つだけ付ける。大きさは径3cm位、舌状花の数が多く二列以上になる。名のとおり関東地方に多く生育しているから。かつては各地にあったが少なくなってきた。絶滅危惧種。

開花時期：5~6月 ☆ ★ (V U)

## センボンヤリ(キク科)

*Leibnitzia anandria*



日当たりの良い山地や草原に生える多年草。草丈5~20cm。根生葉で厚ぼったい葉の裏は白っぽい。花は春の花と秋の花がある。春型は径1cm位の花らしい形(写真左)、秋型は開かないまま結実する閉鎖花(写真右)がある。名はこの閉鎖花が多数の花茎に綿毛がつく様子を大名行列の千本槍に見立てた。

開花時期：春型5月 秋型8月 ☆

## ニガナ (キク科)

*Ixeridium dentatum*



日当たりの良い草原に生え群生する。草丈20~50cmの多年草。根生葉は幅0.5~3cm、長さ3~10cmで長い柄がある。葉は黄緑色、茎の葉は柄がなく茎を抱く。枝先に咲く舌状花は普通5枚、花の時期が長い。名は茎、葉を切ると苦味のある乳液が出るので苦菜。所々に白色の(シロニガナ)が生える。

開花時期：7~8月

## ノアザミ/ノハラアザミ (キク科)

*Cirsium japonicum* /  
*Cirsium oligophyllum*



日当たりの良い草原に生え、多年草。外見では区別がつかない。花の時期と総苞を触ってみると区別がつく。葉の縁の刺が多く痛い。

- ・ノアザミ：アザミの中で唯一春咲き 総苞は粘り気がない。名は野アザミ。
- ・ノハラアザミ：花の時期が8月以降 総苞は粘り気がある。名は野原アザミ。

開花時期：ノアザミ7月 / ノハラアザミ9月



### ユウガギク (キク科)

*Aster iinumae*



草地や道端に生える0.4~1mの多年草、群生する。葉の質は薄めでつるつる、根生葉があり長い柄がある。縁は浅くまたは羽状に深く切れ込む。茎の上部で何本にも分かれて広がり、頭花径2.5cmくらいの淡紫色の舌状花が次々と咲く。名はユズの香がする柚香菊といわれるがあまりにおわない。

開花時期：8~9月

### サウヒヨドリ (キク科)

*Eupatorium lindleyanum*



草原内でも水気が多い辺りに生える草丈0.4~1mのヒヨドリバナの仲間で多年草。葉は対生、細長く柄がない。単葉や3つに深く切れ込む葉もある。茎先に小さい頭花が多数つき、淡紅紫色。花期は仲間の中では遅くまで咲く。名は沢=湿地に生えるヒヨドリバナ。(ヒヨドリバナはヒヨドリの鳴く頃咲く花という)

開花時期：7~9月

### ノコギリソウ (キク科)

*Achillea alpina*



山地の草原に生える0.5~1mの多年草。茎・葉に軟毛がある。葉は櫛の歯のように、羽状に切れ込んで、その裂片に鋭い鋸歯がある。茎の上部の葉の元から分枝し、径1cmほどの頭状花で、白の舌状花5~7枚、中の筒状花は多数でうす黄色。名は葉を鋸の刃に見立てた。

開花時期：9月

### ゴマナ (キク科)

*Aster glehnii*



山の道端や草地に生える多年草、1~1.5mで直立し群生する。葉・茎は細毛がありざらつく。茎先で枝分かれし径1cmほどの花を多数密生するので白い小花をまぶしたようになる。周りの舌状花は白く筒状花は黄色、長期に咲く。名は葉が「胡麻」に似ているので胡麻菜とついた。

開花時期：8~9月



## コウゾリナ (キク科)

*Picris hieracioides*



山地の草原や道端に普通に生える越年草、草丈30~150cm、葉や茎にかたい毛があつてざらざらしていてくっつく。茎は分枝し多くの頭状花をつける。径2~2.5cm、総苞は黒味がかつた緑色、長期間咲く。名の剃刀菜は茎や葉に剛毛があり、さわるとざらつくことからカミソリに例えてついたという。

開花時期：8~9月

## ヤナギタンポポ (キク科)

*Hieracium umbellatum*



山地の草原に生える多年草。草丈0.3~1.2m葉は触るとカサカサしていて、縁に鋭い鋸歯がまばらにある。頭状花は径3cm位、黄色の舌状花だけで周りが長く中は短いので不揃いに見える。黒っぽい総苞が目立つ。名は葉がヤナギに、花がタンポポに似ているから。

開花時期：9月

## ノコンギク (キク科)

*Aster microcephalus* var. *ovatus*



山野の道端や林に多く生える。草丈0.5~1mの多年草。葉は両面ともにざらつき、下葉は縦の三脈が目立つ。茎には毛があり。上部で花茎が分枝して、径2.5cmの淡青紫色の舌状花と中は黄色の筒状の頭状花を多数つけ長期に咲く。名は野にある紺菊（栽培種）の意味である。

開花時期：9月

## アキノキリンソウ (キク科)

*Solidago virgaurea*



日当たりの良い山地や林に普通に多く生える。草丈30~80cm、茎は直立、細く強い。下葉の葉柄に翼がある。枝先が穂状となって、頭状花が多数つく。花は黄色の舌状花と筒状花で径1~1.5cm位と小さく、アワダチソウという別名もある。名は夏に咲くキリンソウ（ベンケイソウ科）に似て秋に咲くから。

開花時期：9月



## ハンゴンソウ (キク科)

*Senecio cannabifolius*



林の縁や草原に生える多年草。茎は直立1~1.5mで大きい。葉は互生で3~7に深く切り込み、表裏有毛。茎の上部が分枝し多数の花、径2cm内外、舌状花4~5枚をつけ、中心に多数の管状花がある。大変目立ち長期に咲く。名の反魂草は深く切れた葉が幽霊の手のように垂れ下がるからという。

開花時期：8月

## キキョウ (キキョウ科)

*Platycodon grandiflorus*



秋の七草の一つ。絶滅危惧種。草丈40~70cmの多年草。茎を切ると白い乳液が出る。葉は互生で長卵形、裏面が白っぽい。花のつぼみから英名はballoon flower (風船の花)。花は4~5cmの先が五裂に大きく開いた釣鐘形。雌雄同種で雄性先熟。太い根は薬用。名は漢名の「桔梗」の音読み。

開花時期：7~8月

★ (NT)

## ツリガネニンジン (キキョウ科)

*Adenophora triphylla*



日当たりの良い山野、草原に生え、40~100cmの多年草。葉は3~5枚の輪生で長楕円形。茎上部の数段に輪生した花茎に5裂の2cmほどの鐘形、淡紫色の花をつり下げる。花も葉も輪生する。太い白い根は薬用。若葉はトトキと呼び食用。名は花を釣鐘に、根を人参に見立てたもの。

開花時期：7~9月

## カワラマツバ (アカネ科)

*Galium verum*



山野の日当たりの良い草原に生え、多年草。草丈30~50cmの茎が細く直立。葉は長さ2cm位、対生で線形。葉と同じような托葉と8枚位輪生したように見え、短い松葉のように見える。花は泡のようで穂状になるが、花冠は4裂で小さい。名は河原松葉のことで河原に多く生えて葉が松葉に見えるから。

開花時期：7月



## ツキヌキソウ（スイカズラ科）

*Triosteum sinuatum*



日本では県下の一部に稀にある、絶滅危惧種。草丈70~90cm、対生する葉はスプーン形で先が尖り、葉の付け根で合わさり（合生）、茎が貫くようになる。花は茎の中段の合わさった葉の付け根に2~4個、外向きに斜め下向き対に付き咲く。実は小指の頭位で茶色のつぼ型になる。名は合生し葉の中を茎が貫くのでついた。

開花時期：6~7月 ☆ ★ (VU)

## マツムシソウ（マツムシソウ科）

*Scabiosa japonica*



山野の草原に生える越年草。茎は直立草丈60~90cm、分枝する。葉は毛がなく深く羽状に裂け、対生する。長枝の先に頭花がつく。花は径3~5cm位外周の花弁は大きく5裂の舌状花、内側の花弁は小形、中心は筒状花。名はマツムシの鳴く頃に開花するから。

開花時期：8月~9月

## オミナエシ（オミナエシ科）

*Patrinia scabiosifolia*



秋の七草の一つ。山野の日当たりの良い草原に生える草丈60~90cmの多年草。茎は直立、葉は対生、羽状に全裂して細く先がとんがる。茎の上部が分枝し3裂して、黄色い花冠は径5裂のつぶのような細花を密生。名は花を粟飯に見立てオミナ（女）メシが転じてオミナエシとなった。

開花時期：9月 ☆

## クルマバナ（シソ科）

*Clinopodium chinense*



日当たりの良い草原に生える草丈30~80cm道沿いでも見ることができる。茎は四角形、下向きの毛があり、上部に特に目立つ。葉は長さ3~5cmの長卵形で対生、花を包む紫色のがくと、1cm位のくちびる形の花が集まり、上部の葉腋数段に輪生する。名は車花、花が輪生して車軸状に付くから。

開花時期：8月



### ウツボグサ (シソ科)

*Prunella vulgaris*



日当たりのよい草地に生える多年草。草丈10~30 cm。夏、紫色の花が咲く。毛ばだった花穂のようすが弓矢を入れる鞆(うつぼ)に似ていることから「鞆草」。別名「夏枯草(かこそう)」と呼ばれ利尿などの薬用にする。茎の断面は四角形。葉はスプーン形。一つ一つの花は唇形。道沿いに群生するので見つけやすい。

開花時期：7月

### スズサイコ (ガガイモ科)

*Vincetoxicum pycnostelma*



日当たりのよい草地に生える多年草。茎は真っ直ぐに1mくらいまで伸びる。葉は対生。夏、緑茶色の星型の花をつけるが日が照ると閉じるので見つけにくい。つぼみは丸く鈴のように見える。花が終わるとガガイモ科特有のオクラのような形の実をつける。絶滅危惧種。

開花時期：7月

★(NT)

### イケマ (ガガイモ科)

*Cynanchum caudatum*



山地の林縁や草原に生えるつる性の多年草。葉は対生。和名はアイヌ語の「神の足」に由来する。葉や茎を傷付けた時にでる汁は有毒。花期は夏。秋に特有の袋果(実)を付け、種髪(毛束)をつけた種子がはじける。道沿いに茂り半球形の散形花序は見つけやすい。

開花時期：7月

### フデリンドウ (リンドウ科)

*Gentiana zollingeri*



青紫色の花が日を受けて、茎の上部に1~10数個まとまって咲く。草丈は5~10 cm。葉は対生。山地の林内や、日当たりの良いやや乾いた草原、明るい林などに自生する越年草。花は日の当たっている時だけ開き、雨天、曇りの日は筆型のつぼみになる。個体によって様々な色を楽しめる。

開花時期：6月



## ハナイカリ (リンドウ科)

*Halenia corniculata*



山地帯の日当たりの良い草地に生える。草丈20~60cm。葉は対生。葉の脇から花柄を数本のばし、淡黄色でいかり型の花を多数つける。花冠(かかん=花びらの集まり)は4深裂、下部は距(きょ=花の後部に突き出した部分)。茎は稜のある四角形。葉に3脈が目立つ。1年あるいは越年草。

開花時期：8月

## リンドウ (リンドウ科)

*Gentiana scabra*



長野県の県花。晩秋紫色の花が咲く。草丈30~80cm。草原などに自生する多年草。葉は卵状披針形。リンドウの仲間には、晴天の日に日光を受けると花開く。曇天や雨天には閉じているが、逆に種子の入った朔果(さくか=果実を形状で分類したもの)は開き雨水が一杯になると水と共に流れ出る構造を持つ。

開花時期：10月

## コナスビ (サクラソウ科)

*Lysimachia japonica*



花は初夏に咲くが、秋にも開花する。茎は地面を這い、全体にまばらな毛がある。日本全国に分布する多年草で、田の畔や林の中など、少し湿り気のある場所に生える。花後の小さな丸い実がナスビ(茄子)に似ていることからコナスビ(小茄子)の名がついた。花は星型で可愛らしい。葉は対生。草丈10~30cm。

開花時期：6~9月

## オカトラノオ (サクラソウ科)

*Lysimachia clethroides*



日当たりの良い草原に生える多年草。草丈50~100cm。葉は互生。地下茎(地中で伸びる茎)を伸ばして増える。茎は赤みを帯び先端に総状花序をだし小さな白い花が下から咲き上がる。長く伸びた花序をトラの尾に見立てて名付けられた。秋には紅葉が美しい。

開花時期：7月



## ウド (ウコギ科)

*Aralia cordata*



春の新芽が山菜として知られる多年草。葉は羽状複葉。花は線香花火のような複散形花序。人の背丈程に成長するが茎が中空で材にならないことから体格はいいが役に立たない人をウドの大木という。

開花時期：8月

## イブキボウフウ (セリ科)

*Libanotis ugoensis*



日当たりの良い草地に生える多年草。草丈40～100cm。茎には稜(りょう=かどのこと)があってやや角ばり全体に毛がある。葉は2～3回羽状複葉で小葉は細かく切れこみ人参の葉に似る。枝先の花序に白色の小花をびっしりとつける。和名は伊吹山で見つかったことからつけられた。

開花時期：8月

## シシウド (セリ科)

*Angelica pubescens*



イノシシが食べそうなところからこの名になったか。根が独活(どっかつ)という漢方薬になる。葉は羽状複葉、花は複散形花序で円盤状になる。多年草で開花まで何年もかかり開花結実するとその株は枯れる。草丈は2mを超える物もあり目立つ。積雪の中種子を付けたままの立ち姿は圧巻。

開花時期：7～9月

## メマツヨイグサ (アカバナ科)

*Oenothera biennis*



北米原産の帰化植物で、花の大きさは良く似ているオオマツヨイグサとアレチマツヨイグサの間であり、花が小さいのでメがつく。花卉の間に隙間がない点でアレチマツヨイグサと区別できる。マツヨイグサ(待宵草)の名は花が夕方開くことからつけられた。花は下段から順に咲く。多年草。

開花時期：7～8月



## オトギリソウ（オトギリソウ科）

*Hypericum erectum*



葉は対生して基部は茎を抱く。葉の表面に褐色の油点が見られるのが特徴である。かく片と花弁には黒点と黒線がある。本種にはタンニンが多く含まれており薬草である。和名の由来は、この草を原料にした秘薬の薬効を漏らした弟を兄が切り殺したという伝説による。山地の日当たりを好む多年草。草丈20～60cm。

開花時期：7～8月

## ヒメハギ（ヒメハギ科）

*Polygala japonica*



山野の日当たりのよい所に生える常緑の多年草。茎は細くて硬く曲がった毛があり横に這う。草丈10～30cm。花弁は筒状で紫色。先端は房状、左右の弁は萼片。葉は丸くやや紫を帯びる。名は萩の花に似て小さいことから。実は円形、熟すと裂け種子が散布される。種子には翼が付きアリが好み運んでくれる。

開花時期：6月

## ゲンノショウコ（フウロ科）

*Geranium thunbergii*



昔から下痢止めの薬草として用いられた。食べるとたちどころに薬効が現れることから「現の証拠」と名が付いた。多年草。花は紅色と白色があり西日本に紅色、東日本には白色が多い。草原内では白色がほとんどで極まれに紅色を見ることができる。有毒のトリカブトの葉に似るがゲンノショウコには毛がある。草丈30cmくらい。

開花時期：7～9月

## メドハギ（マメ科）

*Lespedeza cuneata*



日当たりの良い草地に生息する多年草。細かい葉を密に付けひょろりと立ち上がった姿は独特。昔占いの棒に使われ、目処(めど)目標、目当ての意味でメドハギと名が付いた。草丈は1mを超える。3出複葉が特徴的。地方によってはお盆の時のお供えの箸やマメ科特有の根粒菌が有り法面保護植物として用いられ生活になじみ深い。

開花時期：8～9月



### ミツバツチグリ (バラ科)

*Potentilla freyniana*



日当たりの良い草原、山縁に生える多年草。葉は苺の葉のような3枚葉。根元の茎の重なったところが栗のようなので名が付いた。ここでは個体数が多く花期も長いので見つけやすい。花びらは5枚。花びらは少し丸いハート型で可愛らしい。栗だけど食べれない。草丈15~30cm。

開花時期：5~9月

### ワレモコウ (バラ科)

*Sanguisorba officinalis*



ワレモコウ (吾亦紅) は草地に生える多年草。神様が赤い花を呼び集めて名前を授けた時、この花を忘れていたので、花自ら「吾もまた紅なり」と申し出たので、この言葉を短縮してワレモコウと名付けたとの説がある。種名を覚えるのに便利。個体数が多く見つけやすい。葉を揉むとスイカの匂いがする。

開花時期：7~9月

### キンミズヒキ (バラ科)

*Agrimonia pilosa*



キンミズヒキを漢字で「金水引」と書く。茎の先に小さな黄色い5弁花を沢山付けるので、遠目では金色の水引のように見る。秋になると棘が沢山あるさく果ができ、この棘で動物や人の服にくっついて、遠くまで種子が運ばれ分布拡大する。そのためか道沿いに多く見られる。草丈30~80cm。

開花時期：7~8月

### ウメバチソウ (ユキノシタ科)

*Parnassia palustris*



日当たりのよい湿地に生える多年草。根生葉は長い柄があり多数束生する。葉は厚み光沢があり美しい。葉身は円形。草丈10~40cmの花茎を直立し無柄の葉を1枚つけ、頂に白い花を1個つける。名は花が梅鉢の紋に似ているから。

開花時期：10月

☆



## ベンケイソウ (ベンケイソウ科)

*Hylotelephium erythrostictum*



多年草。5弁の淡紅色の花を散房状につける。中国から薬草として来たと言われ、漢字で「活草」とも書く。これは枯れない強い草という意味で、その強さを武蔵坊弁慶になぞらえた。

開花時期：9月

☆

## キリンソウ (ベンケイソウ科)

*Phedimus aizoon*



日当たりの良い山地の草原や海岸の岩地などに生える多年草。葉は長楕円形で肉厚で乾燥に強い。キリンソウの名は、想像上の動物の麒麟に由来するという説や、茎頂部に黄色く小さな花が重なり合って輪のように見えることから黄輪草になったとの説がある。

開花時期：7月

## カラムツソウ (キンポウゲ科)

*Thalictrum aquilegiifolium*



草原の中で1mを超えて直立し良く目立つ。糸状のカラムツ葉を思わせる白い花が多数、枝分かれした先に広がって咲く。花に見えるのは雄しべの花糸、花弁はない。葉はなめらかで毛がなく羽状複葉、葉裏はやや白っぽい。名は花がカラムツの葉に似ているから。多年草。

開花時期：7月

## アキカラムツ (キンポウゲ科)

*Thalictrum minus* var. *hypoleucum*



秋に咲くカラムツソウという意味。花は淡黄色で多数の雄しべと少数の雌しべからなる。花弁状の小さな萼がある。葉は複数回3出複葉で薬用になるがアルカロイドを含んでいるので注意が必要。多年草。

開花時期：8月



### ウマノアシガタ（キンポウゲ科）

*Ranunculus japonicus*



少し湿り気がある草原に生える。草丈30~60cmで鮮やかな黄色の花が遠くからでもよく目立つ。花弁は5枚、大きさは2cm位で光沢がある。直立した茎の枝先が分かれ、それぞれの先に黄緑色の小粒の丸いつぼみをつける。有毒。名は根元の葉が馬の足形に似ているから。多年草。

開花時期：6月

### オオヤマフスマ（ナデシコ科）

*Moehringia lateriflora*



大山黧。多年草。山に生えノミノフスマに似ているから名が付いた。ノミノフスマはノミの布団の意味。草丈10cm位くらいだが個体数が多く花の時期が長いので見つけやすい。葉に3脈があり、茎や葉に微毛があるのが特徴的。

開花時期：5~7月

### イタドリ（タデ科）

*Fallopia japonica*



若い茎は酸味があり同じタデ科のスイバとともに「スカンポ」と呼ばれ昔は子供たちのおやつだった。雌雄異株の多年草。日本原産であるがヨーロッパやアメリカでは外来種として問題になっている。名の由来は若い茎の模様と枯れた硬い茎から（虎杖）、葉を揉んで貼り付けると痛みが取れる（疼取）の2説がある。

開花時期：8~9月

### アキノウナギツカミ（タデ科）

*Persicaria sagittata*



1年草。湿地に生え、枝先に小花が集まって咲く。葉の基部は矢尻型で茎を抱く。茎や葉柄には鋭い曲がった棘があり、他の植物にまとわりつく。名はこの棘のためウナギでもつかめるということから。

開花時期：9月



## カラハナソウ（アサ科）

*Humulus lupulus*



つる草で他の植物にかぶさって茂る。多年草。茎や葉柄に小さな刺がある。葉はざらつき、単葉、3裂、5裂と変化に富む。雌雄異株で雌花の花穂が卵円形にふくらんで松かさのように下がる。雄花は淡黄色の小花を多数つける。名は果穂が唐草模様に似ているから。

開花時期：9月

## アヤメ（アヤメ科）

*Iris sanguinea*



山地のススキ草原を好むが生育地は幅が広い。葉は直立し幅1cm長さ30~50cm。花茎は30~60cmで2~3個の花をつける。6枚の花びらがあり外花被片（前に垂れ下がった花びら）上部は黄色で網目模様がある。名の（文目）は葉の姿から。多年草。

開花時期：6月

## アマドコロ（ユリ科）

*Polygonatum odoratum*



山地や原野に生える。草丈40~80cm。茎に数本の稜があるのが特徴。葉は長楕円形で長さ7~12cm葉裏は白色。葉の付け根に筒状の花を1~2個吊り下げる。名は地下茎がトコロに似て甘くて食べられるから。多年草。

開花時期：6月

## コオニユリ（ユリ科）

*Lilium leichtlinii*



草原のやや湿った所を好む多年草。草丈は1mを超えオレンジ色の花が一際目立つ。花びらには黒い斑点がつき、花は下段から順番に咲き始める。オニユリは葉の付け根にムカゴ（珠芽：栄養体）が付き、見分けることができる。

開花時期：8月



**ユウスゲ (ユリ科)**  
*Hemerocallis citrina*



レモンイエローの花を夕方に咲かせ午前中にはしぼんでしまう。芳香が有り暗闇でも昆虫を誘い受粉をする。草丈1mくらいの多年草。夕方に咲いて葉がスゲに似ているからユウスゲ(夕菅)の名がある。別名キスゲ(黄菅)。絶滅危惧種。

開花時期：8月

★(NT)

**ヤマラッキョウ (ユリ科)**  
*Allium thunbergii*



山地の草地に生える。葉の間から草丈20~50cmの茎を1本出し、たくさんの紅紫の花を束生し、径3~4cmの球状になる。葉は鈍三稜形で中空。根にラッキョウ状の鱗茎があり名前の由来。多年草。

開花時期：9~10月

**オオバギボウシ (ユリ科)**  
*Hosta sieboldiana*



山地の草原や木陰に生える多年草。葉は根出し卵形で30cmほど溝状の長柄がある。若葉は白い葉柄の部分が食用になる。花は白色~淡紫色まで個体によりさまざま。名は蕾が橋の欄干の擬宝珠(ぎぼうし)に似ているから。

開花時期：7月

**スズラン (ユリ科)**  
*Convallaria majalis*



山地や高原の草地に生える草丈30cmほどの多年草。葉は2~3枚、長楕円形で長さ15~20cm。花茎は葉より低く、10個ほどの花が隠れるように咲き、キミカゲソウ(君影草)の別名がある。花は白色、広鐘形で先端は6裂してそり返り、芳香がある。多年草。

開花時期：5~6月



# — 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所アクセスマップ —



園内を散策する

**キジ**

## — ご利用案内 —

### 《お願いとお知らせ》

- ・ 実験所内へお越しの際は、事前に下記へご連絡ください。
- ・ ススキ草原内は、原則立ち入りできません。ご了承ください。
- ・ 実験所内の樹木園は、平日一般公開されています。(無料)
- ・ **ペットの同伴、動植物の採取はご遠慮下さい。**

### 《お問合せ》

〒386-2204 上田市菅平高原1278-294

筑波大学山岳科学センター菅平実験所

電話 0268-74-2002 FAX 0268-74-2016

ikimono@sugadaira.tsukuba.ac.jp

平成27年4月1日 初版発行

令和2年4月1日 電子版改定

発行: 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所

製作: 菅平ナチュラリストの会